

JASCT

ニューズレター

第7巻第1号

昭和63年(1988年)2月

発行人：松本清一 印刷所：絢文社

理事会からのお知らせ

第8回 日本性科学会の予告

日 時 昭和63年7月10日
開催場所 東京・野口記念館
テ ー マ 「性器疾患のInformed Consent(告知了解)」
— いわゆるムンテラの科学的検討 —

不妊症, 性病, 不感症, インポテンツ等婦人科, 精神科, 心療内科等各科にわたる25の代表的性疾患について各専門の演者による講演

- (1) 具体的ムンテラの言語表現
疾病の内容, 患者の心理社会的因子により如何に話の内容をmodifyするか。
- (2) 患者の理解度, 疾病の転帰, Informed Consent, Compliance等の立場からムンテラの内容を解析

特 別 講 演

欧米諸国の思春期対策

JASCT会長 松本清一

一般演題テーマ：性器疾患に関する私のムンテラ

募 集：昭和63年3月より63年4月末日まで, 多数ご応募下さい。

演題送付先：JASCT事務局 〒107 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館3階
長谷クリニック内 TEL 03-475-1780

日本性科学会はJASCT会員に限定したものではありません。一般演題も非会員から多数応募されています。会員, 非会員を問わず広く御参加されますようお願いいたします。
なお, 御不明な点がございましたら, JASCT事務局までお問い合わせ下さい。

J A S C T 会 長 松 本 清 一
第8回日本性科学会会長 武 田 敏
千葉大学教育学部性教育学教授

Vol. 7

No.
1

JASCT 事務局

〒107 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館3F

長谷クリニック内

TEL 03(475)1780

Sexology こと始め (第5回)

ストリップショーこと始め

医学博士 石 濱 淳 美

戦後のストリップショーこと始めは、昭和21年8月東京浅草に開館されたストリップ劇場、「浅草ロック座」がそれである。しかし実際に戦後のストリップショーこと始めとして公認されているのは、その翌年の昭和22年1月15日から、新宿帝都座5階で公演された、いわゆる「額縁ショー」からである。

このショーは、「アンドロメダ」というタイトルがつけられ、「ヴィーナスの誕生」と宣伝された。

発案者は後の帝劇社長である秦豊吉で、舞台装置は、なんと二科の重鎮東郷青児画伯であった。

このショーはルーベンスの名画そのままに、額縁の中で腰から下を布で隠した、豊満な乳房を観客に惜しみなくあらわし、じっと立っているという、今から考えればなんということもないものであった。

しかし、一糸纏わぬ女性の裸を目の前にした観客は、これまたあっと驚き、客席はその一瞬水を打ったように静まり返った。そして、しわぶきひとつする者もいなかったと言われている。

その間時間にすれば僅か1分、どん帳が下って額縁が消えると、観客ははじめて我にかえり、フッと吐息をもらしたといわれている。

これが評判となり、帝都座には殺到した客が5階の階段を埋めつくし、地上まで延々長蛇の列を作ったといわれている。(仲沢清太郎 踊り子風流話より)。

これがわが国におけるストリップこと始めである。このストリップショーは、それより4か月遅れて、大阪の浪花座でも公演された。

しかし本格的な動くストリップショーが始まったのは、それから1年位遅れてからである。すなわち、昭和23年2月18日には、浅草公園の仮設劇場で、「夜のプラットホーム」、「ジブシーの嘆き」という、全裸の動くショーが行われ、警視庁から検挙第1号を出している。いわゆる「特出しショー」のこと始めと思われるが、公演出来ず記録がないので不明である。

ついで昭和23年3月には、浅草に「常盤座」「ロック座」「大都劇場」などが相ついで開館し、本格的ストリップ・ショーが公開されることになる。そして昭和25年には、東京だけでストリップ常設館16館、ストリッパー300人にも達したという。東京が焼野が原になった5年後のことである。

帝都座で額縁ショーで一躍有名になったストリッパーは、甲斐美春(22歳)というダンサーだが、その後本格的ストリッパーとして名実共に全国的に有名になった女性は、浅草常盤座の「ヘレン滝」、「メリー松原」、大都劇場の「朱里みさを」などがいる。

浅草美人座の社長森福二郎は、昭和24年東京板橋の養老院をストリップで慰問し、お年寄に大変喜ばれたと新聞報道されたことがある。

これに気をよくした彼は、悲境の皇族方もお慰めしようとして、宮内庁から門前払いを喰ったといわれている。

この美人座では昭和26年12月、画期的ともいわれているストリップ・ショーが公開された。それは別名「風呂桶ショー」ともいわれ、ストリッパーが入浴するところを見せるという趣向である。

腰につけたタオルから、ちらりと黒いものがみえ、風呂桶からは本物の湯気が立ち上り、女の上気した肌がなんともいわれなかったという。

その上踊り子の背中を流したい方はどうぞご自由にとアナウンスが入ると、われもわれもと風呂桶の周囲をとり囲み、ケンカ騒ぎとなったため後には整理券が発行されたという。

また余りに長湯をさせられた踊り子の方は、背中が真赤に膨れ上り、悲鳴を上げ休場するものが続出した。

発案者森が書いた「女風呂白書」によると、昭和26年12月に始まった風呂桶ショーは、昭和27年5月までの超ロングランとなり、動員された観客数は延べ25万3,513人、そのうち背中を流した客は13%であったという。これがわが国における、いわゆる「入浴ショー」のこと始めである。

この入浴ショーに際しストリッパーは、薄いナイロンのズロースをはき、本物に似せた「バタフライ」というものを付けていた。したがって、ストリッパーにとっては、このバタフライだけが舞台衣裳であった。

当時このバタフライは、安いもので200円、高級品になると2,000円もした。踊り子によっては、このバタフライを週に何回も交換するので、少ない踊り子でも30枚位、多い者では200枚ものバタフライを持っていたといわれている。

そのうち使用済みバタフライを所望する客が現われ、初めのうちは1枚50円位で分けていた踊り子達も、遂には値上げしさらには競売にまでエスカレートしたといわれている。また客の中には、20日間も毎日かよい、毎日セリ落した老人もいたという。

この入浴ショーの発明によって、思わぬボロ儲けをしたものがいた。それはバタフライを製造販売した、いわゆる「バタフライ屋」である。バタフライを独占販売し、東京中のストリップ小屋に入りし、当時の金で毎月80万から100万の商売をしたという。(はだかの楽屋)

一方このバタフライ競売のエスカレートに、警視庁から昭和28年バタフライ禁止令が出された。ところがこのバタフライ禁止令によって、遂に本物を出すという、いわゆる「特出しショー」なるものを考案するものが現われた。

その結果昭和28年後半から昭和29年にかけて、この特出しショーは全国に広がった。最初に特出しショーを行った所は、文献からは不明であるが、昭和32~33年が全盛時代といわれている。そしてこの特出しショーは、当時「100ドルショー」などといわれた。

またバタフライ禁止令の結果、始められた特出しショーは、その後今日に至るまでにシロシロショー、シロクロショー、ヘビシロショー、レスピアンショー、さらには放尿ショーと、しだいにエスカレートして今日に至っている。

産婦人科心身医学研究会について

産業医科大学産婦人科 近 藤 正 彦

心身医学に対する関心はしだいに高まっており、その重要性も多くの医療関係者に認識されています。しかしながら我国においては、産婦人科領域の心身医学はまだ発達途上にあり、専門家は全国にも数えるほどしかいないのが現状です。性医学と心身医学は互いに関連が深く、一人の人間を語る時、その性と心の問題は切り離すことができません。性医学を志す方々に、ぜひ心身医学を学んでいただきたい理由はここにあると思われます。逆に心身医学を専攻されている方々に、もっと性に対する関心を寄せていただきたいとも考えます。

今回、この誌面をお借りして、私は産婦人科心身医学研究会事務局の担当者として、研究会の歴史や現状、今後の方針などを述べさせていただきたいと思います。ただし個人の意見も含まれており、代表者としての公的原稿ではないことを御了承いただきたい。

研究会は現顧問の九嶋勝司先生、森一郎先生、井上一正先生、さらには故馬島季磨先生、故長谷川直義先生（個人的なことで恐縮ですが、長谷川先生は私の恩師で、私が研究会を知ったのも先生のおかげです）らの御尽力により発足しました。ただ、研究会の初期の活動に関する資料は全くと言っていいほど残されておらず、また事務局も点々と所属を変えていたため、どのような形で会が催され、会員数もどの程度であったのか判然としません。

私が研究会に初めて参加したのは昭和57年ですが、この頃は名称も産婦人科心身症研究会となっており、日本産科婦人科学会総会の会期中に小グループ研究会の一つとして開催されていました。昭和60年度より私も事務局の手伝いをさせていただくようになりましたが、研究会開催の日程的な理由（同時に多くの研究会が催されていた）もあり、出席の先生方も少人数で、顔ぶれもほぼ固定した感がありました。このため、独立して研究会を開催することが会の発展につながるとの幹事会の意見で、第16回（昭和61年9月）より日産婦総会とは切り離して会を開くことになりました。また参加・発表資格も従来の医師のみではなく、助産婦・看護婦・臨床心理士などパラメディカルの方々にも広げました。15回までは一般演題数もわずか5～6題ほどでしたが、16回は15題、17回（昭和62年9月）は10題と増え、盛んな質疑応答が交されるようになりました。さらに昨年、15回・16回研究会の内容を合併した抄録集を初めて編集発行することができました。また前回（17回）より、産婦人科心身医学研究会と改称され、懇親会も同時に開かれ、会員相互の交流をさらに深めることができるようになりました。長い歴史を経て、ようやく研究会の形が整ったものとなってきたようです。

現在の会員数は100名強で、助産婦・看護婦の会員も10名ほど含まれていますが、まだまだマイナーな研究会と申さねばならないようです。国際的には国際心身産婦人科学会にみられるように、特にこの分野においては、専門の医師のみが参加するのではなく、精神科や内科の医師、さらにそれとほぼ同数の助産婦や臨床心理士など、医療の現場を支える多くの方々が会を発展させています。こういった流れは今後の国際的な方向とも申せましょう。産婦人科心身医学研究会も前記の国際心身産婦人科学会の日本支部的役割を果たしており、近い将来、日本において産婦人科心身医学領域の国際学会を開催する計画を進めています。

研究会の活動としては、現在年1回の研究会の開催と抄録集の発行が中心ですが、研究会の開催地が3回連続して（今年秋予定の18回を含め）北九州市の産業医科大学となりましたので、来年よりは場所を変更する予定です。また特別講演として、15回は河野友信先生、16回は池見西次郎先生、17回は永田勝太郎先生に講師をお願いしてきましたが、新にシンポジウムや講習も加え、さらに盛大な会へと発展させたいと思います。また抄録集も投稿などを受け付けることにより、研究会誌としての内容の充実を計りたいと考えています。

会員の増加も会にとって大切なことで、日本心身医学会やこのJASCTの皆様との連携を深めていきたいと考えます。会員募集をしておりますので、ぜひ御参加下さるようお願いいたします。参加希望の方は、下記事務局へ御一報下さい。折り返し、会員登録用紙と会費（年会費2,000円のみ）納入の振込み用紙をお送りします。

〒807 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1

産業医科大学産婦人科学教室内

産婦人科心身医学研究会事務局

TEL 093-603-1611（内線2443）

今後は性医学も含め、産婦人科領域の心身症・うつ病・神経症または更年期障害や自律神経失調症など広く心身医学に関する多くの研究や臨床の発展に役だつような会にしていきたいと望みます。

事務局からのお知らせ

新たに2名の先生がJASCTに入会されました。お手数ですが、お手持ちの名簿にご記入をお願い致します。

インポテンス治療器具「コレクト・エイド」のご案内とあっせん

米国において開発、普及し、去る6月の西独ハイデルベルグ市において開催された第8回世界性科学会議に展示されておりましたインポテンス患者のための勃起機能補助装置『コレクトーエイド』がわが国でも輸入・販売されることになりました。

購入ご希望の方は、下記要領によりあっせんの取扱をいたしますので、JASCT事務局にお申し出ください。

記

- | | |
|--------|---------------------|
| 1. 製品名 | コレクトーエイド勃起機能補助装置 |
| (製造元) | 米国サイネルジスト社 |
| (販売元) | (株) ロバート・リード商会 |
| (販売取扱) | 新医学普及協会 |
| 2. 価格 | あっせん価格 1セット 51,300円 |
| | (定価 1セット 57,000円) |

注、患者さんには定価でお頒ちください。